

伊勢原市商工会 平成29年度 経営発達支援計画目標対比実績管理表

2017.06.01 (thu)

※全職員：宮川・内海・小川・小泉・矢野・安野・樋口・伊藤を指す（局長を除く）

担当 (下線は選択事業)	昨年度 実績値 (平成28年度)	本年度 目標値 (平成29年度)	本年度 実績値 (平成29年度)	自己評価 A～E で表示	自己評価コメント	評価委員 評価A～E で表示	評価委員コメント	
I. 経営発達支援事業の内容								
1. 地域の経済動向調査に関すること【指針③】								
【調査分析等の目標】					D	全体として新規事業が多く実施出来ない事が多かった。	D	調査分析でもっとも重要なことは活用されることである。持続化補助金申請に活用したことは評価できる
新規事業 ①人口動向調査や神奈川県商業統計等の公的統計の活用	伊藤・小泉	未実施	年 1 回	年 0 回	E	実施無し。但し持続化補助金申請において人口動向調査等の公的データを活用した。	D	目標数カウントされていないが、持続化補助金申請で活用されたことは評価できる
既存改善 ②景況調査の実施 ・景況調査結果の提供(15事業所)	全職員	未実施	年 4 回	年 4 回	A	年4回実施。15事業所へ提供した。	B	・提供先が15社あったことは十分評価に値するが、下記の2点もあるため、B評価とする ・全職員が担当であったが、実施1名のみで不十分 ・数目標達成度は100%である(B評価)
新規事業 ③中心市街地商店街等の通行量調査の実施 ・通行量調査	小泉・安野	未実施	年 1 回	年 0 回	E	実施無し。	E	実施されていない
・広報誌「あふり」による提供	伊藤・小川	未実施	年 4 回	年 0 回	E		E	
・商工会ホームページ等での情報発信	樋口・小泉	未実施	年 4 回	年 0 回	E	実施無し。	E	実施されていない
・巡回訪問による情報提供	全職員×5件	未実施	計 40 件	計 0 件	E		E	
2. 経営状況の分析に関すること【指針①】								
【小規模事業者の経営分析目標】					D	新規事業が多く実施出来ない項目が多かった。	D	分析フェーズでは、分析が実施され次にその内容が情報発信されることが重要である。本来はその点から見ればE評価であるが、初年度でありともかく情報発信ができたのでD評価とする。次年度からは、発信内容の点検も行ってほしい。
新規事業 ①簡易経営分析ツールの活用 ・簡易経営分析ツールの活用件数	指導員4名・小川	未実施	計 5 件	計 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
既存改善 ②財務分析面での経営自己診断システムの活用 ・経営自己診断システム活用件数	全職員×2件	未実施	年 16 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
既存改善 ③経営分析におけるエキスパート事業の専門家の活用 ・気づきセミナー開催件数	樋口・伊藤	未実施	年 1 回	年 0 回	E	実施無し。	E	実施されていない
新規事業 ④経営分析の伴走型支援における専門家の活用 ・経営分析事業者数(総計)	指導員×3件 他職員×2件	未実施	計 20 件	計 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
・経営分析件数(巡回・窓口相談時)			16 件	0 件	E		E	
・伴走型支援での分析件数			4 件	0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
新規事業 ⑤ホームページによる啓発活用 ・商工会ホームページ等での情報発信(アップ回数)	樋口・小泉	未実施	年 6 回	年 13 回	A	目標数に比べて多くの情報提供ができた。	A	情報発信回数が目標より多くできたことは、量が質をカバーできたと考えA評価とする。今後は、質についても点検されるとうい。
3. 事業計画策定支援に関すること【指針②】								
【小規模事業者の事業計画策定支援目標】					C	実施出来ない事業もあるが、補助金の申請や創業塾の実施など新規事業を実施することが出来た。	C	新規事業をAレベルで1つ実施できたことは素晴らしいが、既存事業で実施できていないものも2件あった。既存事業は昨年より連続して実施できていないのでこの点も十分レビューしてほしい。
既存改善 ①巡回訪問を強化 ・経営指導員等の巡回訪問による事業計画策定件数	指導員×3件 他職員×2件	未実施	年 20 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
既存改善 ②個別相談やセミナーの開催 ・個別相談やセミナーからの経営指導員等の事業計画策定件数	全職員×1件	未実施	年 10 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
既存改善 ③事業計画策定支援におけるエキスパート事業の専門家の活用 ・エキスパート事業の専門家の派遣等による事業計画策定件数	全職員×1件	年 10 件	年 10 件	年 5 件	C	実施件数は5件であるが、事業者の要望に添った支援ができた。	D	・既存事業として確実に実施できたことは評価できるが、目標値が高すぎたのか50%達成率なので、D評価とする。
既存改善 ④各種補助金の情報提供等支援 ・各種補助金情報提供等による事業計画策定支援	指導員×1件	年 4 件	年 4 件	年 15 件	A	持続化補助金は15件の申請に対し6件の採択であった。	A	内容・件数とも非常によくできています。A評価にあたします。
新規事業 ⑤小規模事業者経営発達支援融資の情報提供等支援 ・各種補助金情報提供等による事業計画策定支援	小泉・内海	未実施	年 1 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
既存改善 ⑥各種専門家相談 ・各種専門家相談(経営・法律・特許・建築)	矢野・内海	年 26 件	年 30 件	年 36 件	A	毎月第3土曜日に実施し、年12回の実施。法律相談が多いものの毎月一定の相談があった。	A	既存事業ではあるが、しっかり対応できているので、A評価する。
新規事業 ⑦事業計画策定の伴走型支援における専門家の活用 ・事業計画策定の伴走型支援における専門家での事業計画策定件数	指導員×1件 安野	未実施	年 5 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
新規事業 ⑧創業支援における事業計画策定支援 ・創業支援における事業計画策定件数	指導員×1件	年 2 件	年 4 件	年 8 件	A	新規創業者に対する支援と創業塾による起業者の掘り起こしを実施した。	A	新規事業として実施できただけでなく、目標件数も大きく上回っており、A評価できる。
4. 事業計画策定後の実施支援に関すること【指針②】								
【事業計画策定後のフォローアップ支援に関する目標】					C	新規事業が多い中で実施出来なかった項目も多いが、補助金と創業塾に関してはフォローアップが出来た。	C	新規事業に2つ取り組めたのは評価できる。ただし、既存事業も含めて次期には実施が期待されるので、そのフォローもしっかりと見直しをしてほしい。
新規事業 ①経営指導員等による定期的な事業計画策定後の実施フォローアップ ・経営指導員等による事業計画策定後の実施フォローアップ事業者数	指導員×4件 他職員×3件	未実施	年 30 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
既存改善 ②エキスパート事業での事業計画策定後の実施フォローアップ ・エキスパート事業での事業計画策定後の実施フォローアップ事業者数	全職員×1件	未実施	年 10 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
新規事業 ③事業計画策定後の実施フォローアップの伴走型支援における専門家の活用 ・事業計画策定後の実施フォローアップの伴走型支援における専門家のフォローアップ事業者数	指導員×1～2件	未実施	年 5 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
新規事業 ④各種補助金及び小規模事業者経営発達支援融資支援後のフォローアップ ・各種補助金及び小規模事業者経営発達支援融資支援後のフォローアップ事業者数	指導員×1～2件	未実施	年 5 件	年 6 件	A	持続化補助金採択事業所6社に対してフォローアップを実施した。	A	3.の各種補助金支援という当該事業はAレベルで実施できていたが、フォローアップもそれに対応して十分できていると評価しAとする。
新規事業 ⑤創業者に対する事業計画策定後の実施フォローアップ ・創業者に対する事業計画策定後のフォローアップ事業者数	指導員×1件	未実施	年 4 件	年 4 件	B	創業塾参加者の内、フォローアップセミナーに参加した方への支援を実施。	B	3.の新規事業を実施し、それに対応してしっかりフォローできたことと評価できる。
5. 需要動向調査に関すること【指針③】								
【需要動向調査に関する目標】					D	全て新規事業であったが、テクニカルショウと秦野商工まつりでのニーズ調査が実施出来た。	D	この項目の事業はすべて新規事業であったが、まずは展示会関係には取り組めたことを評価する。次年度以降にその他の新規事業への取組ができることを期待する。
新規事業 ①展示会・イベント等でのバイヤーのニーズと消費者ニーズ調査 ・展示会開催時の工業系ニーズ調査(支援事業者数)	宮川・樋口 小川・小泉	年 2 件 年 2 件	年 2 件 年 2 件	年 6 件 年 1 件	A C	テクニカルショウヨコハマへの出展と秦野商工まつりへの出展によりそれぞれニーズ調査を実施した。	A C	テクニカルショウヨコハマ2018への取り組みは数値目標上もよくできている。商業観光系への取り組みも、数値目標は不十分だが実績としては評価できるでC評価とする。
新規事業 ②市場環境の調査分析 ・市場環境の調査分析(支援事業者数)	伊藤・内海	年 1 件	年 1 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
新規事業 ③需要動向の把握 ・需要動向調査の実施時調査(支援事業者数)	矢野・小川	年 1 件	年 1 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
・需要動向調査の啓発活動回数(巡回時啓蒙先数)		年 5 件	年 5 件	年 0 件	E		E	
新規事業 ④需要動向調査の必要性の啓蒙と支援先の掘り起こし ・支援先の掘り起こし(新規支援事業者数)	宮川・小川	年 2 件	年 2 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
新規事業 ⑤情報提供の有効性を検証するための委員会を活用 ・情報提供の有効性の検証	横溝・宮川	年 1 件	年 1 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること【指針④】								
【需要開拓支援の目標】					D	全6項目の内半数の事業が実施出来なかったが、テクニカルショウや商談会によって新規顧客獲得が図られた。	D	・需要開拓支援では、商談機会の提供はできたが、最も重要な競争力強化とか、販売力を向上する取り組みまではできていないので、評価としてはDとなる。次期からは、新規事業であるこれらの実施を期待する。
工業系(製造業・建設業等向け)販路開拓支援								
既存改善 ①工業系支援1:商談機会の拡大 ・商談機会の拡大(事業者数)	宮川・樋口	年 7 件	年 10 件	年 6 件	C	テクニカルショウヨコハマに出展し6社の商談機会の拡大を図ることが出来た。	C	テクニカルショウヨコハマ2018での取り組みであり評価できる。数値目標達成率は50%であるが、C評価とする。
新規事業 ②工業系支援2:商談会とセットで提案力向上を支援 ・商談会とセットで提案力向上(事業者数)	宮川・樋口	未実施	年 4 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない
新規事業 ③工業系支援3:事業者連携による商品サービス競争力強化支援 ・事業者連携による商品サービス強化(事業者数)	矢野・内海	未実施	年 2 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない

伊勢原市商工会 平成29年度 経営発達支援計画目標対比実績管理表

2017.06.01 (thu)

		担当	昨年度 実績値 (平成28年度)	本年度 目標値 (平成29年度)	本年度 実績値 (平成29年度)	自己評価 A～E で表示	自己評価コメント	評価委員 評価A～E で表示	評価委員コメント	
※全職員：宮川・内海・小川・小泉・矢野・安野・樋口・伊藤を指す（局長を除く） (下線は選択事業)										
商業観光系(飲食業・小売業等向け)販路開拓支援										
既存改善	④商業系支援1:即売会の機会提供と集客支援 ・即売会の機会提供と集客支援(実施回数)	小泉・小川	年 5 回	年 6 回	年 2 回	C	神奈川みやげもの市場とかながわ商工会まつりに出展し、事業者の支援が出来た。	D	既存事業であるので、達成目標が30%ではD評価である。しかし、機会提供としては良かったので、次期は回数を含めて見直しをしてほしい。	
新規事業	⑤商業系支援2:即売会とセットで販売力向上を支援 ・即売会とセットで販売力向上(支援先事業者数)	小泉・小川	未実施	年 10 件	年 0 件	E	実施無し。	E	実施されていない	
新規事業	⑥商業系支援3:継続的な需要獲得に向けた顧客化支援 ・継続的な需要獲得に向けた顧客化(支援先事業者数)	小泉・小川	未実施	年 5 件	年 2 件	C	商談会を実施し事業者の新規顧客開拓が出来た。	C	新規事業として実施し、取引開始も3社もあったことは評価ができ、数値目標は達成していないが、C評価とする。	
II. 地域経済活性化に資する取り組み										
1. 中心市街地の賑わい創出による地域活性化事業										
【到達目標(事業実施方針)】							A	既存事業ではあるが、目的を十分達成できた。	A	例年、力を入れている事業であり、しっかりできたと評価をする。
既存改善	①中心市街地の賑わい創出による地域活性化事業 ・商業のまちづくり協議会回数(全体会議、正副部会長会議) 商品サービス部会、プロモーション部会、まちなみ環境整備部会	内海 小泉・矢野・伊藤	年 20 回	年 25 回	年 39 回	A	市街地の賑わい創出を目的として、協議会を設置し3部会の活動と会議や諸事業を実施した。	A	回数、内容ともにしっかり実施できており、A評価とする。	
既存改善	②商工まつり・納涼まつりの開催 ・商工まつり・納涼まつりの開催の件数	全員 青年部・女性部担当	年 2 回	年 2 回	年 2 回	A	商工まつり、納涼まつりに多くの人出があり地域活性化に大いに寄与できた。	A	既存の事業であり、非常によくやっていると評価できる。回数は決まっているので、評価はA室の面で評価をして、A方からとする。	
2. 歴史・観光に関連した商品・サービス企画・開発支援										
【到達目標(事業実施方針)】							C	新規事業である観光関連事業との連携が出来た。	C	新規事業にも新たに組み合わせた、先年度実施できていた既存事業1件が実施できなかったため、総合評価としてはC評価とする。
既存改善	③駅周辺商店街連携イベントの開催 ・駅周辺商店街イベントの回数	小泉・矢野・伊藤	年 3 回	年 5 回	年 3 回	C	いせはらハロウィンや大山登山マラソンへの協力など実施した。	C	既存事業であり、例年並みには実施できている。ただ、回数を増やそうとして目標数アップしたが実施できなかったことなので、C評価とする。	
既存改善	④商店街観光ツアー等のイベントの開催 ・商店街観光ツアー等のイベントの回数	矢野・安野	年 3 回	年 3 回	年 0 回	E	実施無し。	E	実施されていない	
新規事業	⑤観光関連事業との連携 ・観光関連事業と連携の回数	小泉・安野	未実施	年 1 件	年 1 件	B	日本遺産認定イベントへの協力を実施した。	B	新規事業として設定した日本遺産認定イベントが実施できたことは、質として評価をしBとする。	
3. 地域ブランド事業										
【到達目標(事業実施方針)】							A	新規事業であるが目標を達成できた。	A	取組回数も質も高いものが見られるので、A評価である。
新規事業	⑥地域ブランド事業の開発活動を支援 ・地域ブランドの開発活動を支援回数	小川・小泉	未実施	年 1 件	年 3 件	A	伊勢原食品産業界への参加協力など、新規事業として目標を達成できた。	A	数値目標を大きく上回る活動ができ高く評価される。	
III. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援向上のための取り組み										
1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等、情報交換に関すること										
【ノウハウ等情報交換の目標】							D	他の支援機関や近隣商工会・商工会議所職員との情報交換が出来た。	D	新規に連絡会などが実施できたことは良い。情報交換は、量も大事なのでその目標をしっかりと達成して欲しい。
既存改善	①他の商工会・商工会議所、支援機関、専門家等との情報交換 ・近隣商工会等情報交換回数	宮川 他、指導員3名	年 2 回	年 2 回	年 2 回	B	日本政策金融公庫や近隣商工会との情報交換会を実施した。	B	既存事業であり、例年並みにキチンとできている。	
新規事業	②近隣商工会・商工会議所連絡会の開催 ・商工会・商工会議所連絡会回数	宮川 他、指導員3名	未実施	年 2 回	年 1 回	C	近隣商工会・商工会議所の経営指導員との研修会を通して情報交換が出来た。	D	新規事業として得るものも多かったとは思いますが、目標達成率は50%であり、開催が事業であるとなると、今回の評価はDとする。	
新規事業	③地域経済動向や需要動向に関する情報獲得 ・支援機関等連絡会回数		未実施	年 2 回	年 0 回	E	実施無し。	E	実施されていない	
2. 経営指導員等の資質向上に関すること										
【資質向上の目標】							C	全体的に目標をほぼ達成できた。	C	集合研修はよくできていますが、個人の力の向上とそれを共有する仕組みが今後とても重要です。その点から評価はCとしますが、次期のさらなる取り組みを期待します。
集合研修							A	目標を十分達成できた。	A	集合研修はよくできています。
既存改善	①神奈川県商工会連合会等主催研修会への参加 ・経営支援職員研修会の開催(支援職員8名の合計回数)	全職員 (特に指導員以外)	年 20 回	年 20 回	年 37 回	A	県連研修会や中小企業大学の研修会に多くの職員が参加できた。	A	既存事業としても、大きく回数を超えて実施できています。量は質をアップさせたいと思います。	
新規事業	②商工会内勉強会の実施 ・商工会内勉強会の回数(小川・小泉・矢野・安野・樋口・伊藤の持ち回り)	左記の担当職員	未実施	年 6 回	年 7 回	A	新規事業として、職員が講師となり若手職員への内部研修を7回実施した。	A	勉強会の目標回数クリアだけでなく、テーマの選定も指導員の力量向上に必要なものが設定されていますので、A評価とします。	
個別研修							C	研修と効果測定を実施した。	C	個別研修は全員がきっちりやっていくことが重要です。
既存改善	③WEB研修の受講 ・WEB研修の実施(年1回)	全職員	年 1 回	年 1 回	年 1 回	C	7名の職員が実施した。	C	7名の職員が実施したとすることで、C評価とします。	
情報・支援ノウハウ共有							E	ノウハウの共有は一部実施しているものの、それを実績として報告するシステムになっていない。今後検討。	E	個の知識を共有することは、組織のレベル向上に必要な仕掛けです。次期はぜひ実施をお願いします。
新規事業	④チーム同行巡回による資質向上策 ・チーム同行巡回の回数(毎月)	宮川:小川、樋口 内海:安野、伊藤 小泉:矢野	未実施	月 4 回	月 0 回	E	実施無し。	E	実施されていない	
新規事業	⑤標準支援業務マニュアルの作成 ・マニュアル整備の実施(毎年更新)	宮川	未実施	年 1 回	年 0 回	E	実施無し。	E	実施されていない	
新規事業	⑥成功事例・支援ノウハウのデータベースでの共有化 ・成功事例・支援ノウハウのデータベース共有化(毎年更新)	宮川	未実施	年 1 回	年 0 回	E	実施無し。	E	実施されていない	
3. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること										
報告	①実績報告書作成 ・目標対実績管理表(当シート)を用いて実績報告書を作成 ・フォローした小規模事業者に対して満足アンケートの実施	内海 全職員	年 1 回	年 1 回	年 1 回	C B E	この管理表を基に評価委員の指摘と未実施事業に対する見直しを行い、次年度に向けて対応していく。 この目標シートを作成 実施無し。	B B E	最後までキチンとフォローされて報告がされれば、評価はBとする。実施されなければ、評価はDである。 目標管理はしっかりできている。 現時点では実施されていないことであるが、満足度調査は聞き取りでもよいので実施してほしい。これから実施しても遅くないので、実施されればC評価とする	
外部評価	②外部有識者による評価及び見直し ・非会員有識者等で構成する「経営発達支援計画検証委員会」の開催		年 1 回	年 1 回	年 1 回	予定 B	平成30年5月15日に実施予定。	B	実施されて、コメントがキチンと出たのでBとする。	
是正措置	③指導や助言方法、支援計画や支援体制などの見直し ・外部機関による評価と指摘に基づき、上記の見直し(是正措置)	横溝・宮川	年 1 回	年 1 回	年 1 回	E	未定	B	これから実施予定のため、しっかり実施されればB評価とする。実施されなければ、評価はEである。	
講評・承認	④正副会長会議による評価・見直し方法の承認 ・正副会長会議及び理事会において評価・指摘・講評と承認を受ける		年 1 回	年 1 回	年 1 回	予定 B	平成30年6月6日の正副会長会議、6月22日の理事会でこのシートの承認を受ける予定。	B	これから実施予定のため、しっかり実施されればB評価とする。実施されなければ、評価はEである。	
講評・承認	⑤事業の成果、評価及び見直し結果の公表 ・理事会承認の後に、商工会報及びホームページで公表	樋口・伊藤	年 1 回	年 1 回	年 1 回	予定 B	正副会長会議、理事会で承認の後、ホームページで公表予定。	B	これから実施予定のため、しっかり実施されればB評価とする。実施されなければ、評価はEである。	